

平成27年度全国学力学習状況調査の結果

京都市立安祥寺中学校

4月21日（火）に、本校3年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語・数学・理科の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を使う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。なお、国語・数学それぞれ問題Aは主として、「基礎的・基本的な知識や技能の習得」状況に関する調査、問題Bは主として、「知識や技能を様々な場面や課題に対して活用」できるかの調査です。

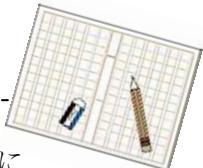
国語科より

総合的に、全国平均に近い結果となりました。領域ごとにみると、目的や相手、状況に応じて聞き取ったり話したりする問題で正答率が全国に比べ下回っています。また、書くことでは、グラフの特徴を読み取っているにもかかわらず、問題文の条件に合わせて答えていないため誤答になっているという傾向が見られました。

また、一方、読むことの領域では、これまでの学習確認プログラムでは小説のような文学的文章に比べ、説明的文章での読み取りに課題があったのですが、今回の調査では、いずれの領域よりもよくできていました。今後も読解力の向上に向け取り組んでいきたいと思います。

漢字の読み書きはおおむねできていましたが、語句に関しては「口火を切る」「縁の下」といった言葉の「口火」「縁」といった語を選ぶ問題。「成否」という言葉を聞いてわかりやすい表現に直す問題は、「成否」という言葉の意味が理解できず答えられなかつたと思われます。本校の生徒に限らず、社会の中で使われている言葉や昔の言葉に触れる機会が少なくなっているようです。

本校の特徴として、休み時間に本を読んでいる生徒が多いのが挙げられます。本や新聞からは知らない語句の意味を想像したり、慣用句に触れたりする機会にもなります。

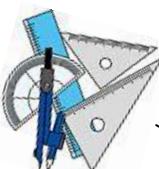


数学科より

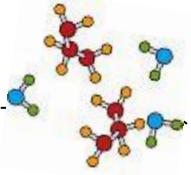
数学は苦手、得意の分かれの結果となりました。基本となる「正・負の計算」で、全国正答率を下回っています。自分ではわかったつもりが、理解があやふやなままにしておく、時間がたつと忘れてしまうといった傾向にあると思われます。また、「等式の性質」の意味が定着していない、「関数」の問題ではグラフを書くことができるが、グラフの示す意味が理解できていないということが見られました。解き方を覚えているにとどまっている生徒が多いと思われます。空間認識力やグラフ・表の意味するところを読み取る力は、実生活に数学で学んだことを応用することができているかをみています。解ければよいということが重視され、実生活に応用していく力が弱いように感じます。

基礎の定着には、家庭学習が不可欠です。基礎・基本の内容が定着している生徒についても、穴埋め問題にとどまらず自分で筋道を立てていく力をつけていくよう学習を進めていくことが必要です。

数学に対する苦手意識を少なくし、理解を深めることで解く楽しさを身につけさせていくよう取り組んでいきたいと思います。



理科より



総合的に、全国の正答率を下回る結果となりました。今回の問題は、知識を問うものと活用を問うものがあり、知識問題の正答率が伸び悩んでいます。「化学」「生物」分野や、2年生で学習した範囲を苦手としている生徒が多くみられました。一方、科学的な思考を活用する問題では、生活の場面で推論する問い合わせでは全国正答率より高くなりました。

さらに、本校生徒の課題として、正解に自信が持てない問題では、より正解に近い回答を探さず、解答しないことを選んでしまう傾向があり、記述式でも無回答が多い傾向にあることが挙げられます。

理科では、基本的な用語を理解することと計算が必要な問題があります。両方とも繰り返し学習していくことで定着し、力となっていくと思われます。今回、活用を問う問題のほうが正答率が高いことは、実生活での体験などを生かせる力を本校生徒が持っていると思われます。これらの結果をふまえ、実生活との関わりを通して、理科への興味を深め、授業の改善に取り組んでいきたいと思います。

生徒質問紙より



普段、「テレビ、ビデオ、DVDを見る時間」「テレビゲームなどをする時間」「携帯、スマートホンを使う時間」(3時間以上)は、全国平均を上回っています。

学習面で見ると、「土日の学習時間(2時間以上)」「家で宿題をしている」「予習・復習をしている」は、全国平均を下回っています。このことから、本校の「家庭学習にどう取り組むか」という課題が浮かび上がります。

また、「将来の夢や目標をもっている」「ものごとにチャレンジする気持ち、やり遂げたことの達成感」は、全国平均を上回っています。このことから、多くの生徒がプラス思考で取り組んでいることがうかがえます。

さらに、「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」など、ルールやマナーを大事にし、自分を高めたいと多くの生徒が考えています。規則を守り、安心して個性を発揮できる学校づくりを目指していきたいと思います。



保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。今回の結果から、見ることができた課題については、現3年生だけでなく本校全学年の課題としてとらえ、改善されるよう取り組んでまいります。

学力は、学校・家庭・地域の連携と地道な積み重ねにより定着していくものです。望ましい生活習慣と日頃の授業を基本に家庭学習のありかたや継続した学習習慣がその基盤となります。学力とともに、自信をつけ、他者への思いやりをもち、将来展望を抱ける子どもに成長していく思います。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。